東京大学大学院教育学研究科説明会にご参加いただきありがとうございます。私は、研究科長の勝野正章と申します。ご参加の皆さんは、それぞれ関心のあるコースがおありだと思います。各コースについては、別に詳しい説明がありますので、私からは研究科の全体像に関わる説明に少しお時間をいただきたいと思います。

教育学研究科は2専攻、10のコースに加えて、5つの附属センター、心理教育相談室から構成されています。大学院生は10コースのいずれかに所属して、それぞれの専門分野の研究を進めますが、附属センターと心理教育相談室も重要な研究・教育機能を有しています。

具体的には、まず学校教育高度化・効果検証センターは、探究学習・協働学習の効果検証や STEAM 教育の研究開発に取り組んでいるほか、欧州研修プログラムやスタンフォード大学との共同レクチャーなどを通して本研究科の国際化を牽引しています。

バリアフリー教育開発研究センターは、東大を挙げてのＤ＆Ｉ（ダイバーシティ・アンド・インクルージョン）推進に全学横断型「教育プログラム」などを通して貢献するとともに、自治体や学校、企業と連携して、障害の社会モデルに基づくインクルーシブ教育、インクルーシブ社会の実現に向けた教育研修プログラムの研究開発と社会実装を進めています。

発達保育実践政策学センターは、質の高い幼児教育・保育の実現を目指す国際実践政策研究拠点として設置された機関です。産・官・民をパートナーとして、対話・共創型研究を推進しており、近年では、幼児教育の効果検証を目的として、5歳児15、000人を対象に小学4年生までの追跡調査を行う文科省からの委託調査に着手しています。

また、渋谷区と連携して、乳幼児の創造的な探求活動の研究と実践を推進しており、その成果が昨年、『アトリエから始まる「探究」 日本おけるレッジョ・インスパイアの乳幼児教育』という書籍として出版されました。

海洋教育センターは、公益財団法人日本財団からの助成を受けて設置されたセンターです。理学系研究科をはじめとする学内他研究科と連携しながら、海と共に生きるという理念のもと、自然との共生や環境保全を主題とするカリキュラム、教材の研究開発を行っています。

最後に、心理教育相談室は、社会に開かれた相談機関ですが、同時に臨床心理学コースの大学院生の研修の場としても機能しています。昨年から、支援が必要な子どもたちに日々寄り添いながら、いろいろ悩みを抱えている学校教師がオンラインも利用して気軽に相談し、語り合いや学びあいができるプロジェクトもはじめています。

大学院生は、以上の各センター・室が頻繁に開催しているセミナーや研究会に参加して、自分の専門分野に限らない広い視野や知識を得ることができます。また、

各センターでは、大学院生が個人、もしくはグループで自発的な研究プロジェクトを計画して申請すると、審査を経て学術的専門的な助言に加え、研究資金の支援も受けられるスキームを実施しています。

さらに、主に博士課程の大学院生対象のものですが、国際卓越研究大学院やSPRING―GX というプログラムにより、教育学研究科の多くの大学院生が経済的支援を受けています。

さて、近年、教育学研究科では「架橋する教育学」というフレーズを研究科における研究・教育活動を通貫する目標・理念を説明する際に使用しています。この「架橋」に含まれている、諸学問間の架橋と社会と大学の架橋という二つの意味をさきほどご説明したセンター・室の活動からだけでも、十分に読み取っていただけるものと思います。また、教育学研究科では、、「インクルーシブな知性」というフレーズもしばしば使用しています。これは、世界の至るところで深刻の度を深めている差別や排除に対する感受性と、それを批判的に理解し、行動するための知の在り方を指すものです。このような知性も、おのずから学際的であるとともに、社会に開かれたものであるほかありません。教育学研究科では、ぜひ各分野での専門研究の基盤となるものとして、そのような総合知を育んでいただければと思います。

教育学研究科では、国内外の大学や研究機関をはじめ、市民社会、産業界、政府・行政機関と連携して、日々、様々な研究が行われ、そうして生み出された知を個人の幸福とともに、よりよい社会の実現に向けて役立てる活動が行われています。この説明会にご参加の皆さんとともに、この公共的な価値ある仕事をさらに進め行けることを期待し、私からの挨拶に代えさせていただきます。